

市民の皆さんへ

私たちの毎日の暮らし・活動は、道路・河川・下水道・公園など様々な社会基盤施設（＝インフラストラクチャー：以下「インフラ」といいます。）が適切に機能することによって支えられています。

個々のインフラは、整備後、例えば道路ならひび割れるなど、「放っておくと、やがて朽ちてしまう」のですが、点検・維持管理（除草等）・補修、さらに状況により改築更新するなど、管理を適切に行うことで機能を果たし続けることができます。

これまで鎌倉市では、各施設の担当部門が予算確保、管理にあたってきたことで、大きなインフラ事故が発生すること無く、今日まで来ていますが、市の財政については、高齢化による扶助費が増加したことなどにより、インフラ関連の予算が縮小しており、今後、高度成長期に整備された多くの施設が次々改築更新時期を迎え、大きな投資が必要となる一方、市の財政は人口減少・高齢化等から収入が減少、扶助費などが益々増えることで、インフラを適切に管理するための経費の確保が極めて難しくなることが見込まれます。

こうした状況を踏まえ、インフラ全体の今後のあり方を改めて考え直すこととし、「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定委員会」では、平成27年（2015年）8月～平成28年（2016年）3月までの期間に、現地調査のほか委員会を6回開催し、市が管理するインフラ全体を俯瞰して今後の方針を示す初めての「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」が関係者の努力でまとまりました。

インフラの多くは、身近にあって、日常に利用するが故「空気」のような存在であり、耐用年数も数十年と長いため「そこにあって、正常に機能するのが当たり前」というようについ思ってしまうがちです。

私たちの生活は、インフラに支えられていますが、インフラは「放っておくと、やがて朽ちてしまう」ものです。このことを改めて認識し、市民・行政が実情を共有して協働のもと、インフラをどう支えてくか、考えていく時期にきています。

この「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」が市民の皆さんと行政にとって、安全・安心や美しい鎌倉の自然環境を未来につなぐきっかけとして利用していただくことを願っています。

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定委員会

委員長：大江 守之